

令和5年度 総務常任委員会行政視察報告書

1 視察日

令和5年5月16日（火）、17日（水）

2 視察先及び視察事項

丹波篠山市役所 兵庫県丹波篠山市北新町41

地域人材育成の取り組みについて

- ・ 神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボの取り組み、実績について
- ・ 篠山イノベーターズスクールの取り組み、実績について

亀岡市役所 京都府亀岡市安町野々神8番地

かめおかプラスチックごみゼロ宣言について

3 参加者

委員長 森藤 文男

副委員長 田代 まさよ

委員 清水 敏夫 田代 はつ江 山川 直保 本田 教治

随員 市長公室付部長 三輪 幸司

議会事務局議会総務課係長 三島 栄志

計8人

4 視察内容

(1) 丹波篠山市役所 地域人材育成の取り組みについて

説明者	丹波篠山市企画総務部長	竹見 聖司
	丹波篠山市企画総務部創造都市課長	藤田 尚位
	丹波篠山市企画総務部創造都市課企画調整係長	中森 恵佑
対 応	丹波篠山市議会議員 会派「青藍会」会長	足立 義則
	丹波篠山市議会議員 会派「青藍会」	上田 英樹
	丹波篠山市議会議員 会派「青藍会」	森本 富夫
	丹波篠山市議会議員 会派「青藍会」	原田 豊彦
	丹波篠山市議会事務局主査	池田 美咲
	丹波篠山市議会事務局書記	森 奏絵

※ 参考 丹波篠山市人口 39,791人（2023年4月30日）、面積377.59km²、議員数18人

○ 丹波篠山市の概要、視察事項

丹波篠山市は、人口は2023年4月末現在で39,791人、面積は377.59km²で、京阪神から50km圏内の400～800mの山並みに囲まれた篠山盆地に位置し、特産は、黒大豆・栗・ぼたん鍋である。重要伝統的建造物群保存地区として、篠山と福住の二地区が選定されており、篠山地区の河原町通りは無電柱化整備が完了し、歴史を大切にしたいまちおこしで今後の訪客に期待大である。観光入込客数は2022年10月時点で70万人と過去最高を記録している。2022年4月1日に旧篠山町域が過疎地域に指定されている。

丹波篠山市は、2010年に神戸大学（全学部）と地域連携協定を締結し、市全体をフィールドとして、地域課題解決と地域活性化を図るために大学の研究者・学生に対して研究フィールドや連携先の紹介、活動拠点の提供を行っている。

2014年には、学業と両立して地域課題解決を図る半学半域型の地域おこし協力隊制度を導入し、地元農家との連携で年間50名程度が丹波篠山に訪れるようになり、プログラム修了後も継続して地域活動を行う学生も現れた。

2016年には、起業を目指す社会人にも門戸を開き、地域資源を活用して受入れ先の地域の課題指す起業支援型の地域おこし協力隊制度を展開

するとともに、農村の新しい価値を見つけ、地域課題解決をしながら、自分の仕事を生み出す起業・継業スクール「篠山イノベーターズスクール」を開始している。

2022年には、一般社団法人丹波篠山キャピタルが設立され、神戸大学と連携して行われる地域人材育成事業を包括的に実施しており、地域おこし協力隊、篠山イノベーターズスクール等の人材育成事業の委託先となっている。



丹波篠山市役所における視察

*** 神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ**

農村地域の課題解決と発展のため、現場発イノベーション（新しい価値や仕組みを生み出す）、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点。2016年にJR篠山口駅構内に開設。

*** 篠山イノベーターズスクール**

2016年より丹波篠山市と神戸大学が連携し、丹波篠山を舞台とした起業・継業（事業継承/第二創業）のためのローカルビジネススクールで、丹波篠山とつながりを持つための大きな入り口の一つとして位置付けられている。

市内の課題を吸い上げながらプログラムを構成し、「CBL（Community Based Learning）」では地域の実践者に直接学び、「セミナー」でビジネスの基礎知識を習得し、実践者や専門家が起業・継業をサポートしている。

(2) 亀岡市役所 かめおかプラスチックごみゼロ宣言について

説明者	亀岡市環境先進都市推進部長	山内 剛
	亀岡市環境先進都市推進部環境政策課副課長兼環境保全係長	名倉 真也
	亀岡市環境先進都市推進部環境政策課主事	松本 和磨
	亀岡市環境先進都市推進部資源循環推進課資源循環推進係長	宮川 泰一
対応	亀岡市議会議長	菱田 光紀
	亀岡市長	桂川 孝裕
	亀岡市議会事務局長	井上 幸子
	亀岡市議会事務局副課長	野澤 孝子

※ 参考 亀岡市人口 86,971人（2023年5月1日）、面積 224.8km²、議員数24人

○ 亀岡市の概要、視察事項

亀岡市は、JR京都駅から快速で21分、高速道路網で大阪府などと結ばれている利便性の高い立地環境である。京都随一の穀倉地帯でもあり、人口は86,971人（2023年5月1日現在）で、京都府内で3番目に多く、大きな減少は見られない。

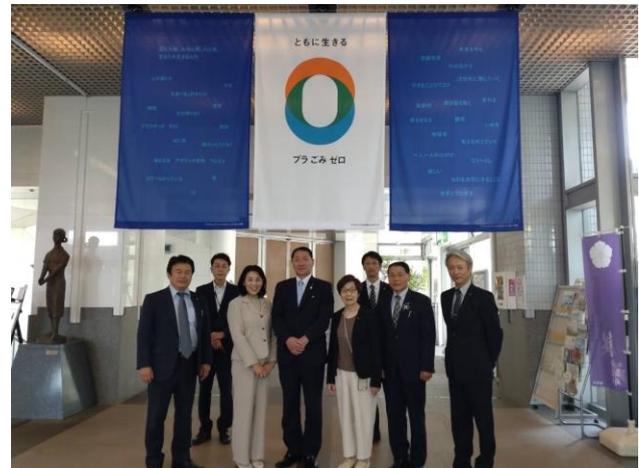
また、京野菜の産地「京の台所」亀岡でもあり、更に亀岡市の三大観光（保津川下り、トロコ列車、湯の花温泉）に加えて、晩秋から初春に見られる「雲海」は絶景スポットとなり、『霧のまち亀岡』と命名している。

亀岡市は、2030年に向けての取組として「使い捨てプラスチックごみゼロ宣言のまち」を目指している。2021年1月には、全国初となる

「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」を施行し、市民のエコバッグ持参率は98.2%と効果を上げている。

たった二人の船頭から始まった保津川の地道な清掃活動（2004年～）が、NPO法人プロジェクト保津川の誕生や、海ごみサミット2012 亀岡保津川会議の開催等へと進化し、2018年12月13日の「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」に結びついた。

環境を軸にした「亀岡ブランド力向上とシビックプライドの醸成」を“未来への挑戦”と掲げ、①観光消費額の増加、②豊かな自然環境の保全、③エネルギーの地産地消、④まちの担い手づくり、⑤地域外所得の獲得、⑥ごみ処理費用の低減、⑦まちのしごとづくりを実現したいとの仕掛けが文字通り『世界に誇れる環境先進都市・亀岡市』実現への着実な歩みとして展開されている最中である。



環境ロゴマーク「ともに生きる プラごみゼロ」
（亀岡市役所ロビーにて）

5 所感

○ 兵庫県丹波篠山市

丹波篠山市の地域人材育成の取組みに係る「神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ」と「篠山イノベーターズスクール」についての視察であった。

移住者を受入れるだけでなく、起業まで一貫して支援を行い、地域課題解決のための起業や活動に結び付いていた。

神戸大学との官学連携は、農村地域の課題解決と発展のための取り組みを積み重ねてきたものであり、その成果は着実に表れており、更なる発展のための支援が継続されていた。

郡上市においても大学との関わりを強化できると良いと考える。

また、丹波篠山市の草刈り代行ビジネスは関係人口から発展したものであり、郡上市においても夏休み期間中の体験等を通じて郡上市と関わり、農業等に関心を持ってもらい、人材育成に繋げることが大切と考える。

○ 京都府亀岡市

亀岡市の五つの地方創生の取組みの一つである環境政策「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」についての視察であった。

亀岡市は、内閣府から「SDGs 未来都市」として選定されており、市を挙げて2030年までに使い捨てプラスチックごみゼロを目指す取組みが行われていた。市民への周知が徹底され、関心度も高く、加えて民間事業者もこの取組みに積極的であり、市民、行政、民間事業者が連携し、心を一つにして取組まれていることに感心した。

プラスチック製レジ袋提供禁止に対しては、市民から賛成と反対の反響があった中、エコバッグ持参率98.2%を達成するとともに、プラスチック製よりもコストの高い紙袋を事業者が共同で購入できる仕組みを構築されていることは驚きであった。

亀岡市の先進的な取組みが全国展開するまでの道のりはまだ長いですが、兵庫県豊岡市でもプラスチックごみ削減の取組みが進められているとのことであり、郡上市が取組みを進めることの意義は極めて大きいことを痛感した。

プラスチックごみゼロを目指す徹底した取組みによって、亀岡市では移住したい人、特に若い世代の移住が増えたとのことであり、郡上市においても「郡上市プラスチックごみゼロ宣言」の下、市民の意識を高め、プラスチックごみゼロ宣言のまちとして周知を図り、移住者、Uターン、Jターン、Iターンを増やすことができると良いと考える。

6 視察経費

視察費	326,260円（随行職員2名分旅費を含む）
一人平均	54,377円

以上、視察研修の主な結果について報告いたします。

令和5年6月30日

郡上市議会議員 田代 はつ江 様

郡上市議会総務常任委員会
委員長 森藤 文男